

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (低) ・毎日、音読カードによる家庭学習を取り入れることで、語のまとまりで読んだり、滑らかに読んだりできる児童が増えた。
- ・「言葉の宝箱」と称した時間に、既習の文字を使った言葉や短作文作りをし、掲示することで語彙力が高まった。
- (中) ・「書くって楽しいね」や「南作タイム(作文)」、毎日の日記を宿題に取り入れることで、自分の考えや思いを分かりやすく文章で表現できるようになった。読書への関心も高く日常的に授業以外でも、継続して読み込んでおり、長文読解に対しての抵抗も少ない。
- (高) ・毎日の音読の宿題によって、物語の概要や説明文の主張などを読み取れる児童が多いため、継続して取り組んでいく。「書くってたのしいね」などの「書く」学習の積み重ねにより、一定の型が提示されていれば、自分の考えを書くことができる。

(2) 課題

- (低) ・文字の拾い読みで、滑らかに音読する(語のまとまりで読む)ことが難しい児童と、そうでない児童との差が大きい。
- ・文章を読んで内容を理解したり、内容に関する質問に答えたりする力に差が見られる。
- ・平仮名、片仮名を正しく読んだり書いたり、促音や拗音、助詞を正しく使うことができない児童がいる。
- (中) ・物語文では文中の叙述を根拠に文章を読み取る力、説明文では段落ごとの要点を読み取り要約する力、既習漢字を文中で表記する力がそれぞれ弱い。国語辞典の活用や教科書「言葉の宝箱」等を通して語彙力を高め、正しく文中のキーワードを押さえて正しく読み取ったり表記したりできるようにする。加えて図や挿絵、資料にも着目して文章と照らし合わせて読み取る力を身に付ける。
- (高) ・物語文の読解では、心情や様子を捉える力は付いてきているが、その根拠を論理的に捉える力が弱い。説明文の読解では、構成を理解したりする力を引き続き付ける。また、「書く」活動において、情報や事例をもとに自分の意見をもち、それを文章で表現する力を身に付ける。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	- 平均正答率は、概ね目標値に到達しているが、「言語文化に関する事項」は下回っている。 - 問題別に見ると、「調べた結果の表をもとに文章を書く」の平均正答率が低い。事例を用いて自分の考えを明確にして書く力が弱い傾向にある。		
第5学年	- すべての平均正答率が目標値や区の平均値を下回っている。 - 領域別に見ると、「情報の扱い方に関する事項」が弱く、複数の情報の中から必要な情報を読み取ることが苦手である。 - 問題別にみると、「漢字を読む」の正答率が目標値を上回っている。 - 観点別では、「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が低い。	- 全体の平均正答率は目標値に届いていないが、問題別にみると、言葉の学習と物語文の読み取りは、概ね目標値を超えている。 - 記述式の問題では目標値を大幅に下回っており、提示された条件に合わせて事実を伝える文章や自分の考えを書く文章を書くことが苦手である。(第4学年時)	
第6学年	- 本校の正答率は区の平均値を下回っている。目標値と比較すると、「話すこと、聞くこと」の領域が上回っている。 - 領域別では「言語文化に関する事項」が弱い。 - 観点別では、「知識・技能」の正答率が低い。	- すべての項目の正答率が目標値や区の平均値を下回っているものが多い。 - 領域別では「言語文化に関する事項」が弱い。 - 観点別では、「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が低い。(第5学年時)	- 正答率が目標値や区の平均値を下回っているものが多い。 - 領域別では「書くこと」「読むこと」が弱い。 - 観点別では、「書く能力」「読む能力」の正答率が低い。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 目標値を上回っているが、区の平均率は下回っている。 - 書くこと、漢字を書くことに対する知識・技能が低い傾向にある。	- 目標値を上回っているが、区の平均率は下回っている。 - 調べた結果の表をもとに文章を書くなど、考えを文章にまとめる力が弱い傾向にある。	- 目標値や区の平均を下回っているものが多い。 - 思考・判断・表現の観点と一致する部分が多く、自分の考えを文章にまとめて書く力が弱いことから、そうした問題への主体性が低くなっている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 目標値や区の平均を下回っている。 - 漢字の由来や修飾語など、言葉の学習に知識・技能が低い傾向にある。	- 目標値や区の平均を下回っている。 - 報告書を読み取ったり、書き直したりなど、情報を読み取り活用する力が弱い傾向にある。	- 目標値や区の平均を下回っている。 - 思考・判断・表現の観点と一致する部分が多く、読み取って文章を書く力が弱いことから、そうした問題への主体性が低くなっている。

3 授業改善のポイント（観点別）【◎は重点項目】

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 視写や聴写などができる教材を用意し、正しい表記・表現を意識した指導を取り入れる。 - 短作文や日記など、文章を書く機会を多く設定し、正しい文字や文章を書くことに慣れさせる。	文章を繰り返し読み、大事な言葉や繰り返し使われる表現などに着目し、理解させる。文章に線を引いたり、文を抜き書きしたりする指導を多く取り入れる。	◎国語の時間に音読の時間を設けたり、拗音や促音の学習では、多層指導モデルMIMを授業に取り入れたりする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎漢字の学習後は、反復練習と小まめにミニテストを行い、読み書きの理解度や定着度を確認する。また、漢字を文中で使えるよう、毎日の課題や宿題に短作文や日記を取り入れ、既習漢字を用いることを必須とし、定着を図る。	「書くってたのしいね」や「言葉の宝箱」、視写教材を用いて、作文の構成や適切な表現の仕方を身に付ける。 - 段落中のキーワードに着目して正しく内容を読み取り、段落相互の関係を考える力を養う活動を多く取り入れる。	- 読書学習司書と連携し、様々な読書活動を通して自発的、継続的に読書に親しむ態度を養う。 - 説明文や物語文等の感想や考えを、小グループ単位で聞いたり話したりして認め理解し合う場を設け、表現することへの自信を持たせる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 漢字をただ記憶していくのではなく、成り立ちを意識して学習する機会を設ける。 - 短作文や感想を書く活動などで文の構成や修飾・被修飾の関係について触れていく。	◎様々な情報の中から必要な情報を読み取ったり、情報をもとに自分の意見を書いたりする活動を多く取り入れる。 - 説明文や「書く」単元の中で、主張に対して自分の意見をもつ習慣を身に付ける。 - 段落ごとの中心を捉えやすい様々な説明文の文章を読み、段落相互の関係に着目しながら、全体の構成を捉えて要旨を把握する力を身に付ける。	情報や事例をもとに自分の意見を提示することに慣れさせ、書く活動への抵抗感を減らしていく。